

第5学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「読む人を意識して構成を考え、物語を書こう」 教材名「もう一つの物語」

2 単元の目標

話の構成や展開、文と文の接続の関係を、物語の下書きで確かめられる。読む人に筋道が伝わるように、語る人物の立場と情報の順序をそろえて物語全体の構成を考えられる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①話の構成や展開、文と文の接続の関係を、物語の下書きで確かめている。（〔知識及び技能〕(1)力）	①「書くこと」において、読む人に筋道が伝わるように、語る人物の立場と情報の順序をそろえて物語全体の構成を考えている。（B(1)イ）	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

読む人を意識し、人物の見方や出来事の見せ方を変えて物語を構成する。出来事を並べる順序と、語る人物が知っている範囲をそろえ、途中で矛盾しない展開を考える。学習指導要領のB(1)イを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(1)力を、言語活動の中で確かめる。

(2) 児童について

(学級の子どもの様子を先生が書く)

(3) 指導について

出来事の順序と、読む人に示す順を別にメモする。語る人物が知る情報に印を付け、知らないことは推測と区別する。既存作品を使う場合も本文を書き写さず、授業内の案として扱う。おおむね満足できる状況は、読む人に筋道が伝わるように、語る人物の立場と情報の順序をそろえて物語全体の構成を考えているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全6時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○読む人にどんなおもしろさを伝えたいかを決め、語る人物と出来事の案を考える。	学習状況を見て支援する。
第2次	2	○出来事の順序と、読む人に示す順を分け、構成表を作る。	知①（語句や内容の整理）
	3 （本時）	○語る人物が知る範囲と、後の出来事に必要な手がかりを確かめ、構成を直す。	思①（発言・学習記録）
	4	○構成表を基に物語を書き、場面の続き方を確かめる。	学習状況を見て支援する。
	5	○読み手の疑問を受けて情報の不足や矛盾を直す。	学習状況を見て支援する。
第3次	6	○作品を交流し、構成の変更が読み手に与えた効果を振り返る。	態①（学習前後の記録・振り返り）



6 本時の指導 (3/6)

(1) 本時の目標

読む人に筋道が伝わるように、語る人物の立場と情報の順序をそろえて物語全体の構成を考えられる。

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「この人物から見て語るなら、何を知っていて、何は知らないはずですか。読み手に知らせる順を変えると、どう感じられますか」 【めあて】読む人を意識し、人物の見方や出来事の見せ方を変えて物語を構成する。 〈予想される児童の反応〉 ・語る人物が見ていないことを、知っているように書いていた。	本時に考える対象を確認し、既に確かめたことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 (分)	○「この人物から見て語るなら、何を知っていて、何は知らないはずですか。読み手に知らせる順を変えると、どう感じられますか」 自分が語り手に選んだ人物について、知っていることと知らないことを分ける。下書きの出来事を並べ直し、その人物が知り得る情報で物語の構成メモを作る。読み手に筋道を確認してもらい、情報を示す順を直す。 〈予想される児童の反応〉 ・語る人物が見ていないことを、知っているように書いていた。 ・後で明かすと驚きが生まれるが、手がかりは前に必要だ。 ・同じ出来事でも別の人物には違って感じられる。	出来事の順序と、読む人に示す順を別にメモする。語る人物が知る情報に印を付け、知らないことは推測と区別する。既存作品を使う場合も本文を書き写さず、授業内の案として扱う。 想定する難しさ：人称だけを替えて語り手が知らない情報も語る。最後を変えるだけで前半との因果関係が切れる。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 読む人に筋道が伝わるように、語る人物の立場と情報の順序をそろえて物語全体の構成を考えている。(語り手の情報を整理したメモ・物語の構成と修正)
まとめ (分)	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって確かめたことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・同じ出来事でも別の人物には違って感じられる。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った実際の言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って自分の表し方を確かめる。 ◎態① (学習前後の記録と、見直した理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「この人物から見て語るなら、何を知っていて、何は知らないはずですか。読み手に知らせる順を変えると、どう感じられますか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた実際の言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

